

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

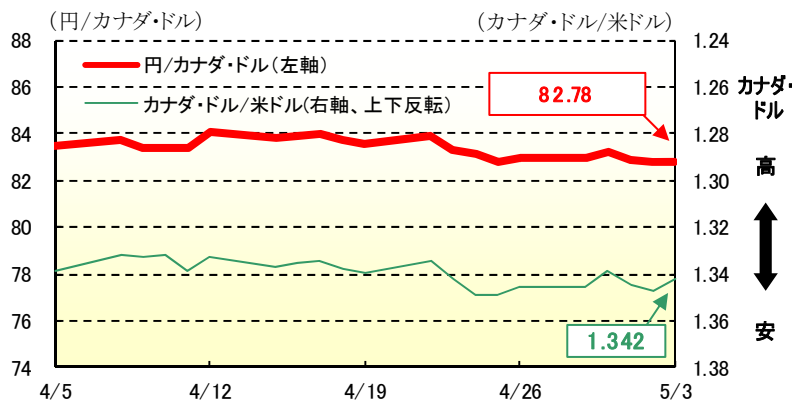
【2019年4月20日～2019年5月3日の推移】

### 【1】4月20日～5月3日までの回顧

カナダ・ドルは、対円で下落しました。また、カナダ5年国債利回りはおおむね横ばいになりました。

カナダ銀行(中央銀行)の金融政策決定会合が開催され、議事録にこれまで記載されていた利上げ可能性についての言及が削除されたことや原油価格が下落したことを受けて、カナダ・ドルは下落しました。カナダ金利に関しては4月末までは低下したものの、その後はFOMC(米国連邦公開市場委員会)でのパウエル議長の発言で利下げ期待が後退し、米国金利が上昇したことを背景に、低下幅を縮める展開になりました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2019年4月5日～2019年5月3日)



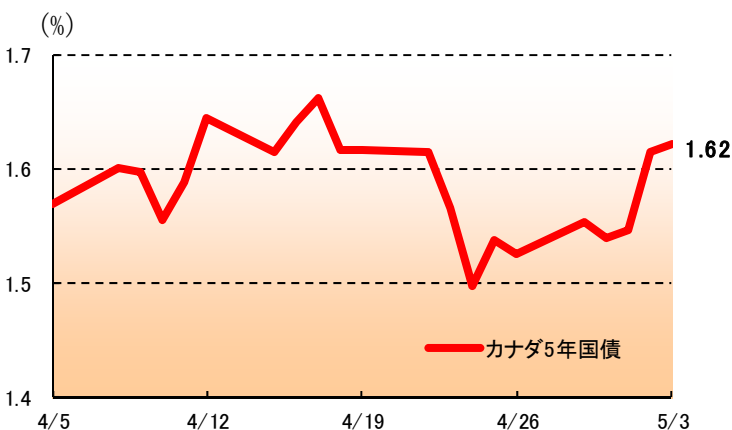
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは雇用統計の発表が予定されています。雇用者数の増減は前月はマイナスであったものの、今月はプラスに転じることが見込まれています。米国ではCPI(消費者物価指数)が発表となっており、市場予想を上回る結果になれば、利下げ期待が後退し米国金利の上昇に連れて、カナダの金利も上昇することが見込まれます。

足元では、トランプ米大統領が中国からの輸入品に対する関税の引き上げを表明しています。そのため、米中貿易摩擦の激化が懸念されており、株価は軟調に推移しているため、カナダの金利、通貨の上値を抑えることが予想されます。

【カナダ 金利推移】 (2019年4月5日～2019年5月3日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>